

平成 25 年度

包装アカデミーご案内

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

包装の専門家を育てるわが国最高レベルの講座

現在と将来の課題に重点をおいた実践的な内容
実践能力をつける少人数制、マンツーマン方式による指導



受講募集期間

3月1日（金）～ 5月17日（金）

募集コース

輸送包装コース(第27期) TRANSPORT

包装材料コース(第27期) MATERIALS

食品包装コース(第28期) FOODS

医薬品包装コース(第26期) MEDICINES

期間 | 2013年6月～2014年3月 主催 |  公益社団法人日本包装技術協会

包装アカデミーのご案内

包装アカデミーは〈包装の専門家〉を育てるわが国最高レベルの講座です。

本講座は、包装に携わる人々に求められる知識や技術が体系的、科学的に整理され、かつ実務的な内容を提供しており、実務経験の豊かな講師陣による実践的な講義、理論づけられた講義、事例研究、実際現場での実地研修など、本講座ならではの多彩な講師陣と教科構成となっております。また、受講生は少人数制（各専門コース15名以内）とし、マンツーマン方式による指導の徹底を図っております。

本講座で培われる講師と受講生、受講生同士の‘情報交流ネットワーク’は本講座を修了した者だけが得ることのできる財産であり、包装分野における今後の問題や課題に挑戦していくためのパワーの源泉となっております。

本講座の修了者（＝包装専士）は、企業内及び包装界のリーダーとしての活躍が期待され、産官学からの分野のみならず消費者の方々からも高い評価をいただいております。

技術の向上発展、企業の繁栄は、絶え間のない人材の育成にあります。

この機会に、包装分野におけるより高度で創造的豊かな人材の育成を目指して、本講座への関係者各位のご推薦をお願い申し上げます。

平成25年度 包装アカデミー研修委員

委員長	小野 拓邦	東京大学名誉教授
副委員長	門屋 卓	神奈川大学 総合理学研究所 顧問
”	酒井 光彦	公益社団法人日本包装技術協会 専務理事
委員	磯貝 明	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
”	川面 克行	アサヒグループホールディングス（株） 常務取締役
”	佐野 千明	味の素（株） 常務執行役員
”	鴛海 雅宜	王子コンテナ（株） 常務取締役技術本部長
”	高橋 尚登	キリンビール（株） 常務取締役
”	広木 一正	大日本印刷（株） 常務取締役
”	保戸塚 政雄	D I C（株） 執行役員
”	高宮城 實明	凸版印刷（株） 副社長
”	山登 正夫	雪印メグミルク（株） 取締役常務執行役員
”	渡 祐二	ライオン（株） 取締役執行役員
”	関 俊秀	レンゴー（株） 取締役副社長執行役員
”	末 俊雄	東洋製罐（株） 副本部長執行役員
”	布山 英士	藤森工業（株） 専務取締役
”	古屋 一	公益社団法人日本包装技術協会 専務理事

（敬称略）

開催概要

<p>募集コース</p>	<p>輸送包装コース（第27期） 全産業界共通で1社に1名の輸送包装専門家を育成 食品包装コース（第28期） 食品業界・関連業界を中心に食品包装専門家を育成 包装材料コース（第27期） 包材業界・関連業界を中心に包装材料専門家を育成 医薬品包装コース（第26期） 医薬品業界・関連業界を中心に医薬品包装専門家を育成</p>
<p>受講期間</p>	<p>(1) 平成25年6月～平成26年3月（10ヵ月間） * 講義時間 10:00～17:00 (2) 開講式 6月10日（月）</p>
<p>会場</p>	<p>(1) 開講式・オリエンテーション、共通教科1 *合宿研修（1泊2日） 湘南国際村センター ①会場案内：逗子駅よりチャーターバス利用 ②宿泊室：シングル仕様 (神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 TEL 046-855-1800) (2) 共通教科2 公益社団法人日本包装技術協会 (3) 専門教科（講義） 公益社団法人日本包装技術協会 (4) 専門教科（実地研修） 各実地研修会場</p>
<p>プラスワン制度</p>	<p>(1) 受講申込み時に専門コースを選択していただきますが、ご希望により他の専門コースの1教科を聴講することができます。 (2) 開講日にプラスワン教科の申し込みを受付けます。</p>
<p>聴講制度</p>	<p>(1) 受講生でプラスワン制度の他に専門コースの聴講を希望する場合は、2教科まで受講することができます。 (2) 包装専士で聴講を希望する場合は、3教科まで受講することができます。* (1) (2)の聴講には聴講料がかかります（P2参照）。</p>
<p>資格</p>	<p>所定教科を受講し試験に合格した者には ＜包装専士＞（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号が与えられます。*P3参照</p>

募集要項

募集期間	平成25年3月1日（金）～5月17日（金）
募集人員	各コース 15名。 *各コース、15名に達し次第締め切らせて頂きます。 *受講申込者が7名未満のコースは開講しない場合があります。
受講資格	(1) 包装管理士講座を受講し<包装管理士>の称号取得者で、所属事業所（代表者又は上司）の推薦がある者。 (2) <包装管理士>未取得者が受講する場合は、高校卒業以上の学力を有し、28歳以上で、包装関連業務に6年以上の経験を有し所属事業所（代表者又は上司）の推薦がある者。 但し、研修委員会が特に認めた者はこの限りではない。
受講料	会員（会員会社）315,000円（消費税込）、一般 504,000円（消費税込） 但し、<包装管理士>は、10%割引となります。 ○受講料に含まれるもの：テキスト・資料、開講式～共通教科1の宿泊費（1泊3食*）*宿泊日の夕食、翌日の朝・昼食 ○受講料に含まれないもの：受講にかかる交通費
聴講料* <small>*聴講制度</small>	1教科 10,500円(消費税込) ○聴講希望教科の講義日の2ヵ月以上前に申し込んでください。

本講座は【キャリア形成促進助成金制度】(厚生労働省、雇用・能力開発機構)に申請することができます。キャリア形成促進助成金制度とは企業内における従業員のキャリア形成の促進のため、事業主が従業員に対して行った、目標が明確化された職業訓練の実施等により、それにかかった費用の一部を助成する制度です。この制度を利用するためには、年間職業能力開発計画事前登録等が必要となりますので、詳細は下記にお問い合わせください。

◇厚生労働省ホームページ：[//www.mhlw.go.jp/](http://www.mhlw.go.jp/)→職業能力開発→キャリア形成促進助成金

◇独立行政法人 雇用・能力開発機構 都道府県センター

ホームページ：[//www.ehdo.go.jp/](http://www.ehdo.go.jp/)→都道府県名から探す→当該都道府県名

申込方法

- (1) 最終頁の「包装アカデミー受講願書」に必要事項を記入し、顔写真を貼付して、下記の申込み先宛にご送付ください。
- (2) 受講資格審査の上、関係書類、受講料請求書をお送りします。

<「包装アカデミー受講願書」に記載の個人情報の取り扱いについて>

- (1) 「包装アカデミー受講願書」から受講生名簿を作成します。
- (2) この受講生名簿は包装アカデミー事業運営に使用する他、包装アカデミー講師及び受講生に配付します。その他、公益社団法人日本包装技術協会が主催する事業のご案内のために利用させていただきます。
- (3) この受講生名簿は、法令に基づく場合を除き、第三者に開示、提供しません。

その他

- (1) 諸事情により、プログラムの一部を変更することがあります。
- (2) 受講者・聴講者以外の方にはテキスト、その他資料は配付しません。
- (3) 開講日以降に受講を取り止めた場合、受講料の払い戻しは致しません。
- (4) 企業訪問の現地研修については、同業種の方は受講申込み時に、当該教科と他コースの希望教科への変更をお願いすることがあります。

お問い合わせ・申込み先

公益社団法人日本包装技術協会（JPI）包装技術研究所・包装アカデミー事務局
〒104 - 0045 東京都中央区築地 4 - 1 - 1 東劇ビル10階
TEL (03) 3543 - 9351 FAX (03) 3543 - 8970

合格後の称号と特典

- (1) 所定教科を受講し試験に合格した者に
<包装専士>（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号を授与します。
この称号は、包装技術の専門家である証として権威づけられます。
- (2) 包装専士には、包装アカデミー講師、包装管理士講座講師、J I S 委員会委員、各種研究会の委員など、活躍の道が開かれています。
- (3) 包装専士有資格者は日本包装専士会*に入会することができます。

*詳細は、日本包装専士会ホームページをご参照ください。

包装アカデミー 共通教科

■共通教科1

月 日	教科と内容	講 師
6/10 (月)	開講式・オリエンテーション	
	開講講演	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拓邦 氏
	企業が期待する人材 ①グローバルで高度に情報化した社会の中で、企業はイノベーションを求める。②イノベーションを通じて次世代に必要とされる企業は、従来に拘らない挑戦意欲／突破力のある人材を求める。	雪印メグミルク(株) 取締役常務執行役員 山登 正夫 氏
	包装産業とこれからの課題 ①包装が果たす社会的役割 ②包装容器産業と経営環境 ③包装容器産業とこれからの課題	東洋製罐(株) テクニカル本部 執行役員 副本部長 末 俊雄 氏
	包装の専門家をめざして (1) 専門コース別研修 (2) 異業種交流研修	包装アカデミー事務局
6/11 (火)	包装ビジョンⅠー包装開発における知的財産情報の活用ー ①包装開発における知的財産マネジメントの意義と重要性 ②知的財産情報へのアクセス方法と活用事例 ③包装開発テーマ探索、開発効率化のための特許情報活用の事例研究	アイル知財事務所 JPI技術参与 弁理士 技術士 白倉 昌 氏
	包装専士論文作成技法 ①論文とは ②包装専士論文作成要領 ③論文作成スケジュール	包装アカデミー事務局

■共通教科2

6/24 (月)	包装ビジョンⅡー世界の包装市場ー ①海外の包装最新情報、包装産業への新たな期待 ②2020年に実現が期待される包装新技術の紹介 ③10年後の包装社会を予測する	(株)パッケージング・ストラテジー・ ジャパン 取締役社長 技術士 包装管理士 有田 俊雄 氏
	包装ビジョンⅢー包装新技術ー ①包装材料の市場動向 ②新規包装食品の開発動向と市場動向 ③アクティブパッケージングなどの新包装技法 ④機能性包装材料の開発動向と今後の展望	包装科学研究所 主席研究員 工学博士 葛良 忠彦 氏
6/25 (火)	包装ビジョンⅣーデジタルデバイスによるコミュニケーション変化と包装ー ①スマートフォンが変える生活者の情報接点 ②ソーシャルメディアにより変わる商品コミュニケーション ③スマートフォンとソーシャルメディアのマーケティング活用 ④包装を利用したWeb誘導技術、拡張現実技術	凸版印刷(株) トッパンアイデアセンター 新事業開発推進本部 課長 横溝 浩一 氏
	包装ビジョンⅤー環境配慮ー ①環境問題の体系 ②循環型社会形成のための法体系 ③容器包装と環境問題の関わり ④容器包装リサイクル法について ⑤容器包装の3R推進のポイント	大日本印刷(株) 包装事業部開発本部製品開発部 環境包材開発チーム グループリーダー 平井 裕一 氏

包装アカデミー 専門教科

1. 輸送包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/11 (木)	実地研修 易損性の測定・評価技法実習 * 富士ゼロックス(株) 物流試験所 ①輸送振動および衝撃に対する易損性の測定・評価技法 ②測定設備による実習	富士ゼロックスアドバンステクノロジー(株) DE部 包装設計G マネージャ 包装専士 小勝 則次 氏
7/12 (金)	実地研修 段ボール設計技法 * レンゴー(株) パッケージ開発センター ①段ボール原紙 ②段ボールの種類 ③段ボール箱の製造工程 ④段ボール箱の特性 ⑤段ボールの包装設計 ⑥材料及び包装貨物試験	レンゴー(株) 包装技術部 パッケージ開発センター 課長 包装専士 山原 栄司 氏
8/2 (金)	実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅰ — 振動、温湿度 — * (株)MTI 新杉田研究室 ①実輸送で貨物が遭遇する輸送環境 ②輸送計測データの活用技術 ③輸送環境シミュレーション	(株)MTI 技術戦略グループ シニアテクノロジーオフィサー 田村 健次 氏
	実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅱ — 輸送試験 — * (株)MTI 新杉田研究室 ①輸送環境におけるラボ試験と実輸送データの有効活用 ②効率的な輸送試験方法、評価方法	日本ロジパック(有) 代表取締役 包装専士 鎌田 茂生 氏
9/10 (火)	緩衝設計技法Ⅰ — 紙系緩衝材の種類とその特性 — ①紙系緩衝材の種類とそれぞれの特性、用途 ②段ボール構造緩衝材の形状と組立包装による分類およびその特徴	王子コンテナ(株) 営業本部CS推進部 担当部長 白原 伸郎 氏
10/11 (金)	緩衝設計技法Ⅱ — プラスチック系 — ①プラスチック系緩衝材を使用した最適包装設計の理論とアプローチ技法 ②コストを意識した設計のポイント ③最近のCAE技術、シミュレーション技術を適用した衝撃解析技法	(株)東北ウエノ 代表取締役社長 包装専士 鈴木 雅彦 氏
11/1 (金)	実地研修 緩衝設計技法Ⅲ — シミュレーション活用実習 — * 旭化成ケミカルズ(株) 樹脂総合研究所 ①PAOSSの紹介 ②事前課題に対する解析結果の考察 ③実落下試験による改良効果の確認	旭化成ケミカルズ(株) 樹脂総合研究所 樹脂製品技術開発部 主査 高田 幹生 氏 主査 喜多村 謙一 氏
12/3 (火)	輸送包装合理化の進め方 ①VE手法による包装合理化の進め方 ②効率的な実験方法と実施事例	石塚包装設計・開発事務所 代表 包装専士 石塚 義夫 氏
1/15 (水)	国際物流Ⅰ — 輸出に関する法規制と規格 — ①国際輸送における法律と規格の役割 ②国によって異なる要求事項の分類 ③国際輸送に求められる法規制対応	ソニー(株) 設計技術センター 包装設計標準課 統括課長 包装専士 金子 武弘 氏
	国際物流Ⅱ — 輸出包装技法 — ①輸出梱包のための必要情報 ②輸送条件別梱包レベルの設定 ③輸出梱包設計技法 ④梱包用材料の害虫処理 ⑤輸出梱包の3R対応	日通商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 次長 包装専士 高橋 慶 氏
2/4 (火)	事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答例)を解説	パッケージングラボラトリー 主宰 包装専士 松田 考司 氏 三菱電機(株) 住環境研究開発センター 技開部設計G 専任 山崎 正博 氏
3/4 (火)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装アカデミー研修委員

包装アカデミー 専門教科

2. 食品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/9 (火)	実地研修 * (株) 明治 守谷工場 ①工場見学 ②講演 (株) 明治における包装開発事例	(株) 明治 技術開発研究所 パッケージングソリューションセンター センター長 包装専士 太田 進 氏
7/10 (水)	食品用高機能パッケージ ①食品包装の機能 ②食品包装設計 ③食品包装と複合材料 ④包装技法と食品保存 ⑤機能パッケージ ⑥アドバンスパッケージ	大日本印刷(株) 包装事業部 開発本部基礎開発部 課長 伊藤 克伸 氏
8/1 (木)	食品包装と品質保持 ①食品包装の役割と品質保持の考え方 ②品質保持のための包装技術 ③品質保持包装の設計と事例	野田治郎技術士事務所 技術士 野田 治郎 氏
	食品包装と微生物対策 ①微生物と食中毒 ②微生物の制御方法 ③微生物制御のための包装技術	東京農業大学 農学部 畜産学科 准教授 農学博士 多田 耕太郎 氏
9/12 (木)	食品包装および包装材料の安全性と法規制 *包装材料コースと合同 ①わが国の食品包装に関する法規制 ②食品衛生法 ③食品添加物の規格基準 ④乳等省令 ⑤再生材料の使用に関する指針 ⑥海外の法規制	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加部 前食品添加物部長 薬学博士 河村 葉子 氏
	食品メーカーにおける容器・包装の安全・衛生性に対する考え *包装材料コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②食品容器・包装における安全、衛生の留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株) コンシューマー事業本部 商品企画部 執行役員 川地 真由 氏
10/16 (水)	食品包装設計技術Ⅰー 固体・粉体包装 ー ①各種食品包装と特徴 ②食品包装の要求品質 ③食品包装設計と材料選定 ④食品包装の評価方法	味の素(株)グループ調達センター 専任課長 包装専士 田屋 昌亮 氏 クノール食品(株)生産技術部 課長 包装専士 板倉 健一 氏
11/5 (火)	食品包装設計技術Ⅱー レトルト、アセプティック包装 ー ①レトルト食品と包装・容器 ②レトルト食品の殺菌原理と方法 ③アセプティック包装の原理と方法 ④最近の包装技術トピックス	東洋製罐(株) テクニカル本部 基盤技術部 主任部員 包装専士 岩下 健 氏 プラスチック技術部 主任部員 包装専士 芋田 大輔 氏
12/4 (水)	食品包装設計技術Ⅲー 包装機械・システム ー ①包装形態と機械装置 ②包装ラインのシステム化(装置工程) ③包装ラインの衛生管理(衛生、異物混入防止、異物検査、HACCP他)	増田食品開発コンサルティング 代表 包装専士 増田 敏郎 氏
	食品包装設計技術Ⅳー 包装試験法 ー ①内容物保護性 ②物流適正(落下強度、圧縮強度) ③衛生性 ④利便性(開封強度、圧縮強度など) ⑤その他	ハウス食品(株)ソマテックセンター 容器包装開発部 チーフ研究員 包装専士 小野 公裕 氏
1/16 (木)	デザインの感性工学評価法(容器・包装を中心) *包装材料コースと合同 ①デザイン表現に対する認知や感性的な要因 ②人が対象をどのようにとらえ、評価する調査、考え方、取り組み	千葉工業大学 工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
2/5 (水)	事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	味の素パッケージング(株) 包装生産技術センター 包装専士 沓掛 勝則 氏 (株)クレスコ 品質管理部部長 包装専士 清水 啓介 氏
3/5 (水)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装アカデミー研修委員

包装アカデミー 専門教科

3. 包装材料コース

月 日	教科と内容	講 師
7/17 (水)	実地研修 *日本ポリエチレン(株) 研究所&工場 ①ポリエチレン製造プラントの解説と工場見学 ②研究開発設備の見学 ③講演 ポリエチレンの材料開発、加工技術、用途開発について	日本ポリエチレン(株) 包装資材営業本部 部長 佐々木 正明 氏 研究開発センター グループリーダー 池野 元 氏
8/6 (火)	包装材料とコンバーティング技術 ①印刷の発展と対象分野の拡大 ②印刷の基本技術 ③包装と印刷 ④環境配慮型包装 ⑤包装印刷とユニバーサルデザイン ⑥軟包装材の製造	凸版印刷(株) 生活環境事業本部 商品開発部 部長 工学博士 吉永 雅信 氏
9/11 (水)	包装材料科学 ①高分子材料の物性基礎 ②接着理論と応用 ③表面、界面処理 ④接着系の挙動 ⑤接着性能の評価	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拡邦 氏
9/12 (木)	食品包装および包装材料の安全性と法規制 *食品包装コースと合同 ①わが国の食品包装に関する法規制 ②食品衛生法 ③食品添加物の規格基準 ④乳等省令 ⑤再生材料の使用に 関する指針 ⑥海外の法規制	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加部 前食品添加物部長 薬学博士 河村 葉子 氏
	食品メーカーにおける容器・包装の安全・衛生性に対する考え *食品包装コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②食品容器・包装における安全、 衛生の留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株) コンシューマー事業本部 商品企画部 執行役員 川地 真由 氏
10/17 (木)	高機能包装材料Ⅰ－軟包装－ ①プラスチックの材料物性 ②軟包装用プラスチックの種類と特性 ③包装材料加工法 ④包装材料の機能と構成 ⑤関連法規と環境対応	藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 包装専士 荒木田 真 氏
11/6 (水)	高機能包装材料Ⅱ－ガラス容器－ ①ガラスびんの概要 ②ガラスびんの製造方法 ③ガラスびんの軽量化 ④ガラスびんの加飾技術 ⑤ガラスびんの3R	東洋ガラス(株) 生産技術部 部長 林 達雄 氏
	高機能包装材料Ⅲ－プラスチック剛性容器、金属容器－ ①金属容器の容器製造法、容器材料、補助材料の特性 ②プラスチック剛性容器の容器製造法、容器材料、補助材料の特性	東洋製罐(株) テクニカル本部 メタル技術部加工技術G 主任部員 包装専士 横尾 徹也 氏
12/5 (木)	高機能包装材料Ⅳ－紙容器－ ①紙材の特徴 ②紙容器の現状と課題 ③これからの紙容器	(株)クラウン・パッケージ 社長付 研究開発室 室長 包装専士 八木野 徹 氏
	高機能包装材料Ⅴ－新包装材料－ ①バリア性材料全般 ②バイオプラスチック ②アクティブ/インテリジェントパッケージング ④最近のトレンド	(株)クレハ 加工技術センター 副センター長兼分析評価研究室長 包装専士 田中 幹雄 氏
1/16 (木)	デザインの感性工学評価法(容器・包装を中心) *食品包装コースと合同 ①デザイン表現に対する認知や感性的な要因 ②人が対象をどのようにとらえ、評価する調査、考え方、取り組み	千葉工業大学 工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
2/6 (木)	事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	花王(株)包装容器開発研究所 上席主任研究員 包装専士 麻生 雅晴 氏 味の素(株)イノベーション研究所G長 包装専士 松嶋 健治 氏 (株)細川洋行 研究開発センター 副センター長 包装専士 蔭山 陽平 氏
3/6 (木)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装アカデミー研修委員

包装アカデミー 専門教科

4. 医薬品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/4 (木)	医薬品包装と情報伝達技術 ①食薬区分 ②薬事法他関連法律で義務付けられている表示事項と解釈 ③適正使用・安全対策に関する表示と情報提供の具体的方法 ④医薬品包装と表示等に対する今後の課題	日本製薬団体連合会 安全性委員会 安全使用対策検討部会長 包装専士 大澤 総弘 氏
7/5 (金)	実地研修 * 内藤記念くすり博物館、エーザイ(株)川島工園 ①内藤記念くすり博物館見学 ②エーザイ(株)川島工園見学 ③講演	エーザイ(株) 内藤記念くすり博物館 館長 赤田 幸雄 氏
8/5 (月)	医薬品包装設計技術 ①医薬品包装に求められる機能・役割 ②医薬品包装設計の進め方(開発～工業化) ③医薬品包装トピックス、動向	アステラス製薬(株) 技術本部製剤研究所 包装研究室 主管研究員 包装専士 丸橋 宏一 氏
	医薬品包装と品質保証 ①医薬品包装とバリデーション ②包装関連の試験方法と評価	エーザイ(株)C J部技術センター 本庄研究室 主幹研究員 吉田 匡宏 氏
9/13 (金)	医療事故防止と医薬品包装 *国立成育医療研究センターにおいて実地研修、講義 ①医薬品を取り扱う薬剤施設見学 ②講義 医薬品の流通からの離脱、医療機関の医薬品コード情報の種類、コード情報を利活用する場面、現状の問題点と今後の期待	独立行政法人 国立成育医療研究センター 薬剤部 医薬品情報管理室 室長 相良 眞一 氏
10/18 (金)	医薬品の包材選択と応用技術 — プラスチック軟包材を中心に — ①医薬品包装に求められる機能と循環への取り組み ②包材選択の基本(プラスチックの特性、医薬品用包材事例、法規制等) ③包装設計の留意点(防湿・防気包装、相互作用防止等) ④実践問題と討議	藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 包装専士 鈴木 豊明 氏
11/7 (木)	医薬品の剤形別包装技術と応用 I — 液剤 — 液剤(注射剤、内外用剤、点眼剤、点鼻剤)の ①製剤の特徴 ②製造方法 ③包装設計 ④包装試験 ⑤安定性・使用性の観点からの留意点	中外製薬(株) 生産工学研究部 副部長 山東 義明 氏
12/6 (金)	医薬品の剤形別包装技術と応用 II — 固形剤 — 錠剤、カプセル剤など固形製剤の直接容器を中心に ①医薬品包装の基本機能 ②設計時の課題 ③PTP、SP、瓶包装の設計 ④包装技法と応用	塩野義製薬(株) CMC技術研究所 製剤研究センター 注液軟製剤部門 主席研究員 包装専士 木戸 茂 氏
1/17 (金)	医療過誤防止と人間工学 ①人間工学概要 ②人間の情報処理とヒューマンエラー ③医療安全の製品設計原理原則 ④人体計測からの製品適合及び製品評価	東京都立産業技術高専 ものづくり工学科 医療福祉工学コース 教授 三林 洋介 氏
2/7 (金)	事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	中外製薬(株) 生産工学研究部 課長 包装専士 落合 誠 氏 第一三共ヘルスケア(株)包装表示グループ 主査 包装専士 金子 智彦 氏 (株)協進印刷 専務取締役 包装専士 広瀬 康男 氏
3/7 (金)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装アカデミー研修委員



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
会場



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
研修室



平成24年度 輸送包装コース受講生



平成24年度 食品包装コース受講生



平成24年度 包装材料コース受講生



平成24年度 医薬品包装コース受講生

包装アカデミー 全体進行概念図

*1

開講式・オリエンテーション
6月10日

*2

共通教科（1、2）
6月10、11、24、25日

*3 <専門教科>

輸送包装コース
7月～2月

食品包装コース
7月～2月

包装材料コース
7月～2月

医薬品包装コース
7月～2月

*4

包装専士論文発表～合否審査
3月4日～7日 *専門コース別に実施

*5

合格証書授与式
3月28日

包装専士

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

*1 開講式・オリエンテーション

- (1) 開講式は、「湘南国際村センター」で、6月10日（月）13:00から行います。
- (2) 開講式・オリエンテーションに引き続いて共通教科1の講義に入ります。(1泊2日の合宿研修)

*2 共通教科（1、2）

- (1) 包装アカデミー受講生全員共通の教科です。4コース合同で行います。
- (2) 各講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (3) 共通教科1は湘南国際村センター、共通教科2は公益社団法人日本包装技術協会で行います。

*3 専門教科（4コース）

- (1) 7月からは、受講申し込み時に選択した専門コースに分かれて、講義と実地研修を行います。
- (2) 講義は公益社団法人日本包装技術協会で、実地研修はそれぞれの現地で行います。
- (3) 講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (4) 希望により他コースの講義を聴講することができます（プラスワン制度、聴講制度）。

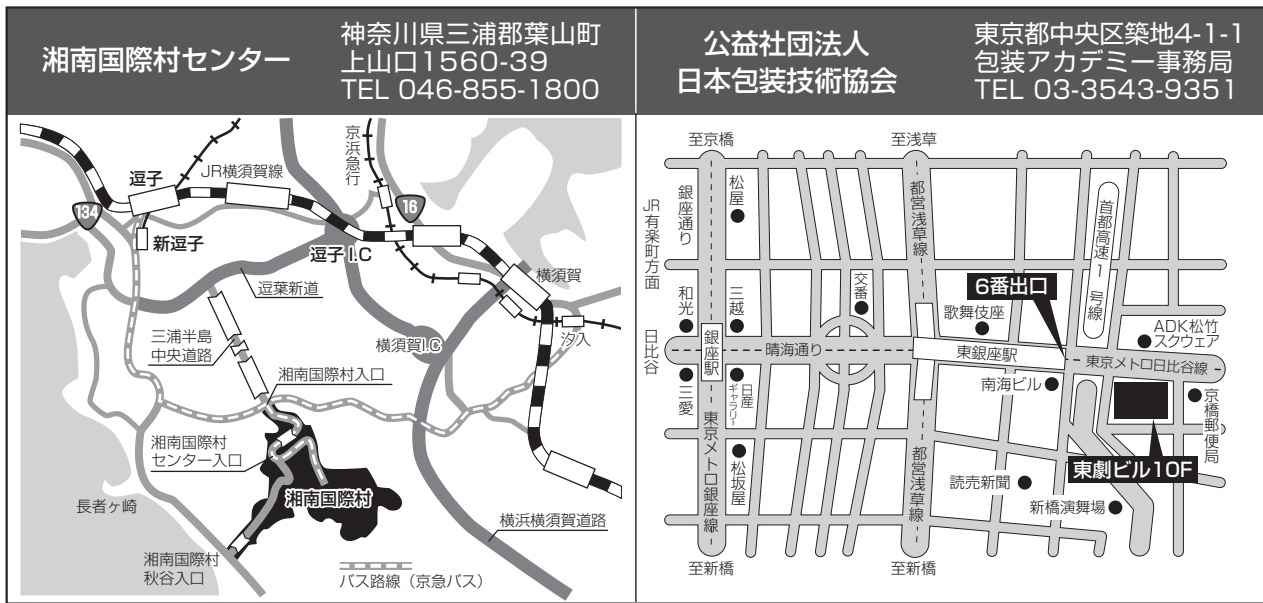
*4 包装専士論文発表～合否審査

- (1) 共通教科1で、包装専士論文作成技法について説明します。
- (2) 各自が選定したテーマにより研究を進め、その成果を「包装専士論文」としてまとめます。
- (3) 包装専士論文発表は専門コース別に行い包装アカデミー研修委員が審査します。受講生は交互に発表・聴講します。
- (4) 包装専士論文・理解度テストの結果及び出席日数を総合して、包装アカデミー研修委員会が合否を判定します。併せて成績優秀者（金賞、銀賞、銅賞）を選びます。

*5 合格証書授与式

- (1) 合格者には合格証書を授与し、＜包装専士＞（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号が与えられます。＜包装専士＞は包装技術の専門家としての証です。
- (2) 成績優秀者には表彰状並びに副賞が授与されます。

会場案内図



JR横須賀線・逗子駅又は京浜急行・新逗子駅・汐入駅よりバス約30分

平成25年度 包装アカデミー企画委員

委員長	酒井 光彦	公益社団法人日本包装技術協会 専務理事	包装専士
委員	原田 善衛	三菱商事パッケージング(株) 執行役員	マーケティング事業部長
”	島村 悦夫	凸版印刷(株) 生活環境事業本部 開発販促本部	商品開発部 部長
”	山原 栄司	レンゴー(株) パッケージ開発センター	課長 包装専士
”	高橋 慶	日通商事(株) ロジスティクス・サポート事業部	次長 包装専士
”	伊藤 克伸	大日本印刷(株) 包装事業部開発本部基礎開発部1課	課長
”	小野 公裕	ハウス食品(株) ソマテックセンター 容器包装開発部	チーフ研究員 包装専士
”	鈴木 稔	東洋製罐(株) 営業本部 一般容器営業本部室	課長
”	荒木田 真	藤森工業(株) 研究所	グループリーダー 包装専士
”	山東 義明	中外製薬(株) 生産工学研究部	副部長
”	吉田 匡宏	エーザイ(株) エーザイジャパンCJ部技術センター	本庄研究室 主幹研究員
”	酒井 和家	公益社団法人日本包装技術協会	生活者包装研究室長 包装専士

(敬称略)

平成25年度 包装アカデミー受講願書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

平成 25 年 月 日

フリガナ 氏 名	(印)	男・女	顔写真貼付 (3×4cm)	
生年月日	西暦	年 月 日 (満 歳)		
会 社 名				
所 属 ・ 役 職				
所 在 地 (〒 -)				
TEL ()	FAX ()	携 帯 - -		
E-mail				
最終学校名		(専攻:)		
職 務 歴	年 月			
*できるだけ詳細に	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
包装関連経験年数	年 ヲ月	専門分野		
包装管理士取得年	年 (第 期)	包装管理士 No.		
専門コース *希望コースに○印	輸送包装コース (第27期)	食品包装コース (第28期)	包装材料コース (第27期)	医薬品包装コース (第26期)

推 薦 書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

平成 25 年 月 日

本受講願書に記載の者は、記載内容に相違ないことを確認し、平成 25 年度 包装アカデミーの
受講適格者であることを認め推薦致します

推 薦 者 名		印	TEL ()
会 社 名			FAX ()
所 属 ・ 役 職			
所 在 地	(〒 -)		

切り取り線

公益社団法人日本包装技術協会 of 事業案内

〔設立の目的〕

社団法人 日本包装技術協会は、昭和38年3月14日、包装技術等の向上改善を通じて生産・流通および消費の合理化を図り、もってわが国経済の発展に寄与することを目的として設立されました。また、平成23年11月1日に公益社団法人日本包装技術協会として、新たにスタート致しました。(会員数1,200社)

〔協会の主な事業〕

目的を達成させるため、下記の事業を行っています。

- ◇包装に関する調査・研究
- ◇包装に関する規格の作成・制定およびその推進
- ◇包装に関する試験、技術、デザインの開発および指導・相談とその普及
- ◇内外関係機関との連絡提携
- ◇包装人材の育成並びにその推進
- ◇包装啓発活動およびその推進
- ◇その他本会の目的を達成するために必要な事業

〔入会手続〕

入会申込書に諸事項を記入のうえ、お申込みいただくことにより入会が認められます。

入会には、特に資格その他の制限はありません。

	法人会員・賛助会員	個人会員
入会金	10,000円	5,000円
年会費(一口)	100,000円	40,000円

*詳細は総務部までお問い合わせください。

1. 会員サービス活動

- 月例研究会・企業見学会
- 包装管理士講座
- 包装アカデミー
- 各種セミナー
- 月刊誌「包装技術」の発行
- 技術相談・コンサルティング
- 各種情報サービスと各種出版
- 各種包装懇話会

2. 経験交流

- 世界包装機構(WPO)、アジア包装連盟(APF)等との連携
- 海外包装専門視察団の派遣
- 海外包装技術研修および視察団の受入実施
- 全日本包装技術研究大会
- 木下賞
- 日本パッケージングコンテスト
- グッドパッケージング展
- 東京国際包装展(東京PACK)
- 暮らしの包装商品展

3. 調査・研究(JPI包装技術研究所)

- 包装標準化の推進
- JIS・ISO等各種規格の原案作成
- 海外における包装事情調査と技術協力
- 内外包装産業統計の調査
- 包装の省資源・省エネルギーの調査・研究
- 生活者包装設計のための調査・研究
- 包装関係文献資料の収集整理



公益社団法人日本包装技術協会

本部 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
関東支部 TEL 03(3543)1189 FAX 03(3543)8970

関西支部 〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27
中之島センタービル28階
(関西生産性本部内)
TEL 06(6444)6473 FAX 06(6444)6450

中部支部 〒450-0003 名古屋市市中村区名駅南4-12-17
日通ビル2階
TEL 052(563)7110 FAX 052(563)7123

西日本支部 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-1 日通ビル5階
TEL 092(272)5632 FAX 092(272)5635

東北支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-16-12
仙台商工会議所会館
(東北生産性本部内)
TEL 022(261)0411 FAX 022(261)1474

北海道支部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目
北海道経済センタービル
(北海道生産性本部内)
TEL 011(241)8591 FAX 011(241)3898